

1. 開会 進行：藤原生涯学習課係長
2. あいさつ 大北教育長
3. 委嘱状交付 机上交付
4. 委員自己紹介 各委員
5. 事務局自己紹介 各課職員
6. 委員長副委員長の選出について
 委員長 池田博文氏
 副委員長 岸本博介氏
7. 報告
 三木市教育の基本方針について 大西生涯学習課長より説明
8. 議事
 (1) 令和7年度社会教育施策の推進について 各課長等より趣旨説明

【質疑応答】

(池田委員長)

ご質問や詳しく聞きたいことがあればどうぞ。

(國井委員)

提案ではなく日頃気になっていることがある。私は交通指導員として朝の子どもたちを見守っている。特に一年生くらいの子が大きなランドセルに重い水筒、さらに水着や服まで持って汗をかきながら登校しているのを見て、熱中症が心配である。午後は35度に達する日もあり、日傘やネッククーラーを使う姿も見かける。三木市として子どもの見守りや熱中症対策はどうなっているのか教えてほしい。

(横山委員)

ランドセルの重さは全国的な問題である。三木市の学校では教科書やノートを学校に置いて帰るなど、子どもたちと計画的に荷物を分ける工夫をしている。エアコンは普通教室・特別教室ともに設置済みである。子どもたちの熱中症への意識がやや低いため、窓の開放や換気の呼びかけ、ポスター作成など啓発活動も行っている。水分補給も促しており、登下校時にはミストシャワーの設置もある。熱中症警戒アラートが出た日は、外遊びや体育を控えさせるなど、教

職員と教育委員会で連携して対応している。

(國井委員)

ランドセル以外のアイテム、例えばネッククーラーは学校に持ち込んでよいのか。

(横山委員)

はい。三木市は5年ほど前にネッククーラーを配布したが、現在は各家庭から持参している。

(石田委員)

教育センターの方に伺う。スマホ利用について、諸外国では10歳未満の使用制限が議論されているが、日本は消極的である。三木市としては、教育長が先ほど言われたとおり、主体的におやりになるか、子どもたちにスマホを一生懸命教えても、何の障害もないというような意識なのか。

(小池所長)

質問は学校配布の端末についてか、それとも個人のスマホか。

(石田委員)

両方である。諸外国は学校支給端末も含め制限を検討している。

(小池所長)

国の施策として一人一台タブレット端末を配布して、学習に活用していくことになっている。健康面や感性への影響が懸念されるため、三木市ではデジタル・シティズンシップ教育を全校で実施し、安全なICT利用のルールや方法を指導している。

(石田委員)

問題なのはスマホ利用である。タブレット推進がスマホも許可されると誤解されやすく、SNS利用の危険性をどう考えているか知りたい。制限すべきか、それとも自由に使わせるのか。

(小池所長)

個人のスマホ所持に関する規制は難しく、家庭での管理と判断が基本である。学校ではデジタル・シティズンシップ教育の一環として保護者も参加する学びの機会を設け、注意点を伝えている。

(石田委員)

家庭で指導できない場合も多く、共働きなどで子どもがほったらかしの中スマホを与えているケースがある。国や県が明確な指示をしていない中で、三木市としての見解を知りたい。

(大北教育長)

16歳以下のスマホ利用禁止の法律はないため、現状での制限は困難である。ただ、上手に使うための教育を学校と家庭で協力して進めている。例えば、タブレット利用時間の設定も家庭から申請で変更可能である。基本的にスマホの管理は家庭に委ねているが、教育委員会として問題は認識し、学校教育で繰り返し注意喚起している。

(高森委員)

SNSの問題は学校でも重要視している。禁止は難しいため、機器の悪用防止や安全利用教育を徹底している。問題があれば関係機関と連携し対応している。表面的な規制ではなく、モラル教育で被害予防に努めている。

(國井委員)

別所中の生徒会でスマホ利用のルール十か条を作っているのではないか。

(高森委員)

はい。生徒会などが作成し、生徒全体にネット利用の十か条を周知している。午後 8 時以降はスマホを見ないなどのルールを調査し、守られているか確認している。別所小中は小中一貫教育を行っており、中学生が小学校でスマホ利用の授業を行い、浸透させている。SNS 問題は深刻だが、モラル教育で対応している。

(石田委員)

もう一つ伺う。2～3 年前に話題になった大谷翔平選手のグローブについてである。小学校に 2 つずつ配布されたと聞いたが、その後どのように活用されているのか。

(横山委員)

学校によって多少違いはあるが、基本的には備品として置き、休み時間に子どもたちが自由にキャッチボールできるようにしている。大谷選手の夢である「多くの子どもが野球に親しむ」という思いに沿い、誰もが使いやすい環境づくりを心がけている。子どもへの声かけや安全面への配慮(柔らかいボールの使用や使用後の返却など)も行っている。

(石田委員)

子どもたちにグローブを配るのか。それとも備品として置いているだけか。

(横山委員)

野球部の子どもも「欲しい」と言うと思うが、大谷選手の意図は、野球未経験の子どもも含め、多くの子が野球に興味を持つことにある。したがって、特定の子に渡すのではなく、使いたい子が自由に使える環境を重視している。

(中西委員)

図書について報告する。平田小学校で 1～6 年生を対象に読み聞かせを行っている。子どもたちは毎回楽しみにしており、読み聞かせが始まると目を輝かせて「今日はどんな絵本？」と近づいてくる。スマホが普及している時代だが、絵本の魅力は変わらず、大切に感じる。

アフタースクールでは昔の紙芝居のようにカゴに絵本を入れて見せたところ、普段は興味を示さない子どもも寄ってきた。長続きはしないが、心の中に絵本の良さがあると実感した。

先輩からは「家でも子どもが手に取りやすい場所に絵本を置く環境づくりが重要だ。」とのアドバイスも受けた。

(2) 持続可能な人づくり・地域づくりについて

【議事内容】

(西田委員)

「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」は昔から続いてきた。45 年前、自治会をしていた頃もみんなで団結し、まちづくりを進めてきた。今は子ども会や PTA、自治会、老人会を含め役員のなり手不足や地域のつながりの希薄化を感じている。私の町では、かつて表札や街灯が当たり前だったが、現在は表札が減り、防犯カメラ設置や外灯点灯の呼びかけが必要な状況で

ある。高齢者の地域参加の機会も減っている。私は人の目の垣根隊として、毎朝子どもたちとハイタッチする。夏休みは毎日ラジオ体操に参加し、子どもたちとハイタッチをしている。こうした日常の交流こそ地域づくりだと思う。人口減少と高齢化が進む中で、みんなで協力して社会教育を盛り上げることを願っている。

(國井委員)

老人クラブの会員は減っているのか。

(西田委員)

昨年から今年にかけて約 3,600 人から約 3,400 人に減少した。旧市地域は加入率が高めだが、新興住宅地では 1 割程度である。4,000 人規模でも加入者は数百人とどまっている。各会長が地域で加入促進の話し合いをしているものの、厳しい状況である。

(國井委員)

老人クラブで別所町公民館の輪投げ大会には多くの方が参加していた。こうした取組も大事である。

(西田委員)

老人会ではいきいき体操や輪投げといった気軽に参加できるスポーツを推進している。今年 11 月にはモルックの兵庫県大会が三木市で開催予定である。

(仲里委員)

緑が丘東小学校で PTA 会長をしている。役員のなり手不足は深刻で、子どもの減少で 1 クラスのみの学校も多く、同じ人が何度も役を務めている。PTA 内の人間関係も希薄で声をかけづらく、課題である。地域の子どもの安全のために必要なことはやるべきだが、AI 活用などで効率化し、不要な作業は減らすことも検討している。

(杉原委員)

吉川小中一貫校推進委員である。先日、和泉市の一貫校を訪問した。そこでは PTA 加入が強制はできないが、PTA 活動が活発であることを理解したうえで入学する。今年の新 1 年生の倍率は 4 倍、来年度も定員に達している。特認地区の優先枠で、定員超過は受け入れられない状態になっている。吉川町でも同様の一貫校を構想中であり、共に協力して取り組む良い学校になると期待している。また、増加する海外ルーツの子どもたちについては、中西委員から良い報告を聞きたい。

(中西委員)

先日、兵庫県人権教育研究大会に参加した。加西市立北条小学校では、多文化共生を「違いを豊かな可能性と捉える」という理念で進めている。アイマスクや車いす体験を通じて、日常困っている方の体験をすることで、外国籍の方はどんなことに困っているのか考える。子どもが自主的にアンケートを取り、結果でも多くの外国籍の方が日本人と交流したいと答えている。今年は児童が主催し、食文化交流も行った。その結果、児童が「違い」を理解し、社会を明るくする可能性としてとらえることができ、児童に誰かが困っている状況を見過ごせないという内発的な人権意識が芽生えたという成果があった。三木市でも外国籍住民が増えており、私たちも人の尊さを学び広めていくことが重要である。

(大北教育長)

杉原委員の話に関連し、吉川の一貫校は本来吉川町の子ども対象だが、市内他地域からも入学できる制度を検討中で、送迎やPTA 協力もお願いする予定である。詳細は追ってお知らせする。別所はまだ正式な一貫校設立は決まっていないが、小中連携の教育は進めている。

(高森委員)

中学生の孤立が心配である。部活動の減少で暇になり、ゲームや SNS に依存しがちである。経済的に「みきタイプ」などを利用しにくい子もいる。読み聞かせには高校生が参加しているが、中学生にも参加を促し、多文化共生の場にも関わってもらいたい。家に閉じこもり孤立する子を減らすため、中学生を引き出す場づくりが急務である。

(池田委員長)

委員の皆さんもぜひさまざまな活動に関わってほしい。
これで議事を終了し、進行を事務局に返す。

9. その他

東・北播磨地区、県・近畿・全国社会教育委員協議会関係予定

藤原生涯学習課係長より説明

10. 閉会

あいさつ 岸本副委員長

～午前 11 時 45 分終了～

記録者 生涯学習課 野田